



# プロジェクトニュース

## シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

「本邦研修 世田谷～自分たちのまちは、自分たちで良くする～」号

2017年7月26日号 (Vol.45)

7月2日～15日にかけて、シエラレオネのカウンターパートである地方行政官6名が来日し、「市民協働によるまちづくり」をテーマにした本邦研修を実施しました。研修前半は、地方自治地域開発省大臣、次官等3名のシエラレオネからの招へい事業参加者も同行し、総勢9名となりました。

今回の研修の最初の訪問先である世田谷区は、昨年の本邦研修でもまちづくりについてお話を伺った自治体です。その中でも「住民の意見を取り込んだ基本計画の策定方法」は、研修員の関心が大変高いものでした。今年度の研修では、それに加え、地域住民のまちづくり活動の紹介を含めて、上馬地区住民の方々と意見交換を行いました。

上馬まちづくりセンターでは、20名を超える住民の方々が集まってくださいました。たくさんの住民の方々に迎えられた研修員からは、「世田谷のような大都市にあっても、こんなにたくさんの住民代表が集まるなんて信じられない！シエラレオネでは、村落で住民と集会を開くことはできるが、首都フリータウンなどの都市部で、住民を集めることはとても難しい。どうすれば、これだけたくさんの住民の方を集めることができるのか？」という驚きと羨望の声があがりました。

限られた時間内での意見交換では、すべての住民の方からお話を伺うことはできませんでしたが、多くの住民の方が話していた「自分たちの住むまちを自分たちで良くしていきたい」という言葉に研修員一同、感心していました。意見交換を通じて研修員は、住民協働によるまちづくりは、町会の組織や定期的な会議を開催する体制が整備されているだけではなく、自分たちの住むまちを良くしたい、という思いから積極的に地域の活動を行う住民の熱意や住民同士の信頼関係の構築が必要であることを学びました。大臣からも、「内戦後の復興期やエボラウィルス病が蔓延していた時、住民による連携が重要であった。」という話がありました。



上馬まちづくりセンターで住民と意見交換する研修員



シエラレオネの研修員を歓迎して、障害のある区民の方々が作ったクッキー

世田谷区の基本計画は、当初は行政主導で策定されていたもののコミュニティの変遷から住民の意見を反映して策定するようになったそうです。シエラレオネでも各県で開発計画を策定していますが、計画への住民意見のより一層の反映が行政の課題となっています。講義では、計画策定に携わる区職員の方から住民の意見を計画に反映する必要性、世田谷区が実際に実施する無作為抽出による区民ワークショップの開催や区民の意識調査およびアンケート等の住民参加に関する取り組みの一部が紹介されました。

政策経営部副参事（計画担当）の中西さんからは、「世田谷区では5つの地域に区分して地域の行政拠点となる総合支所を設置し、行政サービスやまちづくりを展開するしくみとして地域行政制度を設けています。」と説明があり、シエラレオネの研修員からも「各県にはチーフダムという郡に近い地域区分があり、ここにはチーフダム議会（行政組織）が設置されており、世田谷の地域行政制度のしくみはシエラレオネと似ている点がある」との発言がありました。

研修員から「世田谷ではこのしくみを活用し、どのように住民の意見を取り入れた計画を策定しているのか」、大きな関心が寄せられました。また、「行政が抽出した地域の課題と住民の意見を反映させ、区としてどのように計画を策定するのか」と積極的に質問をし、自分たちで活用できることはないか、熱心に説明に耳を傾けていました。

研修員たちは、世田谷区で「住民協働のまちづくり」に対する行政官や住民の方々の熱意、そして、住民の意見を取り入れるための行政の取組みを学びました。研修員はこの学びをそれぞれの県に持ち帰り、行政官として自分たちのまちを良くするため、住民の意見を取り入れた計画策定や行政サービスの改善など、業務の中で生かしてくれることを期待しています。



世田谷区長を囲んでの集合写真

以上